

# 年頭のご挨拶

岡山県中小企業団体中央会  
会長 武田 修一



新年明けましておめでとうございます。

会員の皆様におかれましては、平成25年の新春をお健やかに迎えることと、心からお慶び申し上げます。

わが国経済は、長引くデフレ・超円高、欧州財政金融不安、中国経済の減速、尖閣諸島に端を発した中国本土の不買運動、資源価格の高止まり、高コストな電力、社会保障と税負担等の将来不安による投資意欲や消費の減退等により、未だ予断を許さない状況が続いております。

また、3月には中小企業金融円滑化法が終了するため、中小企業の資金繰りが危惧される所です。今こそ財政・金融両面からの切れ目ない景気刺激策並びに金融緩和策の早期実施が必要であり、企業としても新分野進出や新たな需要の創出に努めることで、一刻も早く回復軌道に乗せることが最重要課題となっております。

さらには、中小企業の製造業の復活に向けて先端設備投資並びに研究開発費等への優遇措置の実施、雇用確保や所得拡大に向けて海外投資収益を国内に還元できる戦略が必要と認識しております。

今後の我が国の進むべき方向について考えるときに、近年のリーダーシップの不安定性がグローバル経済の広域化・普遍化・標準化に対応するための政策決定の遅れを招き、取り返しのつかない不具合を生じていたことは認めざるを得ないと思っております。

このようにかつてない程大きな課題に直面している中小企業では、ともすれば国や地方自治体による対応を求めがちになりますが、それだけに頼るのではなく中小企業が本来持っている他に依存しない独立の精神の振興が今ほど求められている時代はないと考えております。

明治の初め、福沢諭吉は「独立の気力なき者は国を思うこと深切ならず」と言い、また、「立国は公に非ず、私のことなり」と喝破していました。この覚悟こそがこの難局を切り抜けるためには必要であり、また日本人の優秀性がいかんなく発揮されなければならない年だと考えております。

中央会が守るべきものは、国の存在にとって最も根本的である国民の中流層の維持拡大であり、99%の県民の幸福です。そのためには雇用機会の多様化、多種化を通じての中小企業の振興だと信じております。

私たちの出来ることは、現状の厳しい経営環境を乗り越える弛まぬ努力をしている組合や組合員企業に対し、中央会の総力をあげて支援し、組合活動の活性化や中小企業の発展に貢献して参りたいと考えております。

最後になりましたが、本年が会員組合や県下中小企業の皆様にとりまして、新たな発展の道を切り開く明るい年となりますようご祈念申し上げまして、新年のご挨拶とさせていただきます。